

書評

〔評者〕
名郷直樹
東京北社会保険病院臨床研
修センター長



白衣のポケットの中 医師のプロフェッショナリズムを考える 宮崎 仁, 尾藤誠司, 大生定義 編

A5判 頁264 2009年
定価 2,520 円(本体 2,400 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00807-5]医学書院刊

『JIM』に連載されていたときから注目していた記事が、連載時より格段にバージョンアップして、1冊の本にまとめられた。タイトルは「白衣のポケットの中」、副題が「医師のプロフェッショナリズムを考える」である。そして、本書のコンセプトは、裏表紙に次のフレーズに凝縮されている。

医師の白衣には2つのポケットがついています。

ひとつは、(中略)「確実性」のポケット。

もうひとつは、(中略)「不確実性」のポケット。

(中略)

2つのポケットの中から飛び出した

医師たちの「悩ましき日常」をめぐる冒険を

どうぞお読みください。

医師である私は、本書を読んでとても勇気づけられる。プロといわれても、医師だって生身の人間だ。むしろムカつくことが多い仕事かもしれない。そういう医師の現状が、「バカンス旅行の最中に病棟から呼び出された」というような、誰もが経験したことがある、いくつかの秀逸な例で語られる。さらにその現状を受

けて、プロを究めるための対応策が、「プロフェッショナリズムを究める」という形で語られる。

本書で一貫して語られるのは、技術合理モデルに基づくようなサイボーグ的なプロではない。むしろ、失敗し、悩み、混乱するが、それでもなお患者の問題に立ち向かおうとする、どこにでもいる医師像としてのプロである。失敗するプロ、悩むプロ、混乱するプロ。こう書くと、それはプロなのか、という突っ込みが入るだろう。しかし、そう思う人ほど、本書を手を取るべきではないだろうか。医師のプロフェッショナリズムは、失敗し、悩み、混乱する中にしか存在しない。

本書は医師にとってとても読み応えがある。しかし患者にとってはどうだろうか。プロの医師というのは、こんなだけだと、本書の内容を患者に紹介したときに、患者はどう思うだろうか。「プロの医師って、けっこう素人っぽいですね」、などと患者に言われそうでちょっと怖い。そうした問題が、本書の先にある、さらに大きな問題だろう。